

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076800061		
法人名	有限会社 咲楽		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	福岡県朝倉郡筑前町長者町226-5 (電話)0946-42-5569		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 1 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ただ認知症の人だと観るより認知症があるが、人なんだとの気持ちを考えることで普通に生活ができるとの思いで一人ひとりにあった関わり方で、自己決定をし納得して一緒に暮らしていくことを大切にし、ヨガ、地区のお祭りの出店参加、小学校の生活発表会や卒業式の参加、公民館主催による蕎麦打ち交流会など参加、地域の見守りで認知症高齢者を理解してもらうよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 29 年 8 月 22 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広大な大豆畑を抜けた集落に、塀や囲いもなくたたずむ家が事業所である。家に入ると食事の良い香りで迎えられ、ほっと安心できる雰囲気がある。
近隣住民との関わりが強く協力体制が整っている。施設長・ホーム長がリーダーとして職員や利用者を思いやり、職員はお互いが注意しあえる良好な関係で利用者を支援している。「人として」関わることを大切にしている。
利用者の思いを大切に、常に利用者が主役である。職員一人ひとりには向上心を持ち働ける環境である。職員の結束力が強く、大きな力を発揮できる。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主体性、責任性、存在性、自律性を持ってその人らしい生活を支援することが管理者、職員ともに共有している。	施設長は、月に1回のスタッフ会議だけでなく、日常の場面場面で理念を具現化していくための話し言葉かけを行っている。職員は、理念についてというより、何を目標とするのかを常々考えて取り組んでいる。利用者の理解を深めることを最も大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年恒例の地域の夏祭り出店参加。 ・地域からの声かけで畑の整備をしていただき中学生と玉ねぎ植えと収穫。 ・小学校の生活発表会の参加。 ・ホームへ生徒達が訪問交流。 ・地域全体で蕎麦交流会をし、入居者様の声かけやかかわり方を知って頂く。 	近隣者とは顔見知りで、事業所に立ち寄られたり、採れた野菜をもらったりといった関係ができています。近くの小学生の希望で訪問を受け、卒業式には利用者が花束を持って参加した。中学生と一緒に玉ねぎを植え共に収穫を喜ぶ。緊急連絡網に近隣者が入り、緊急時に協力が得られる体制が整っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と一緒に近くのスーパーなどに出かけて知ってもらうことで認知症の方の理解に努めている。又、家族会や推進会議などの時に認知症の勉強会などを通じて支援する方法や会話の持って行き方などのケアに対する理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回市町村、地域の役員さん、入居者様のご家族と入居者様を交え、推進会議を行ない、ホーム内の活動報告をし、皆様よりアドバイスや意見をいただき、サービスの質の向上を目指している。	運営推進会議は2ヶ月に1回行っており、利用者・家族・行政・地域住民が参加し活発に意見交換している。災害時の避難について話し合い、訓練の方法への助言や地域住民からの申し出で連絡網に地域住民が位置づけられるようになった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に市町村からの参加、ホーム内の入居者様の過ごされ方、地域との交流などの報告意見をいただいている。市町村からの依頼で認知症家族の交流会など参加し、グループホームの特色などを知っていただくことで協力関係を築いている。	行政とは日々連携し、認知症サポーターの広報活動も一緒に取り組んでいる。事業所便りは、行政だけでなく、消防署・警察署・幼稚園・小中学校に配布し、事業所の実情を理解してもらうための工夫を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修参加。事例を挙げ禁止対象となる行為を職員全員で意見を出し理解することで質の向上を高め全員で共有するように心がけている。	身体拘束の廃止への取り組みは研修会や日々の声かけを通じ行っている。外出傾向の利用者への対応は、利用者とともに行動することを原則としている。常に利用者の目線で想いをくみ取り、対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修参加。ホーム内での声かけなどで勉強会を1ヶ月1回の中で出し合い気づいたことを全員で出し見過ごさないように確認し続行している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間行事などに必ず成年後見制度の勉強会を行ないその人の立場となり相談などもある程度職員ができるように勉強会している。	権利擁護の制度の説明は、年に2回の家族会で説明している。職員は内部外部研修で年に1回以上は学習する機会がある。一人ひとりの職員も理解を深めているが、相談があったときは施設長やホーム長が対応している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、本人には契約時「入居契約書」「重要事項説明書」の内容を読み説明、疑問点があればその都度説明し理解、納得を得ている。又、改定などがあった場合な家族に説明し同意書を作成している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも家族からの要望があれば管理者職員に話をしやすいホームの雰囲気作りをし、小さな気づきでも聞き落とさないようにしケアプランに上げてゆく。	利用者は日常的に意見や思いを述べる機会がある。利用者の希望に沿い誕生プレゼントと称し、個別に外出や外食に行く。家族へは介護記録を確認していただきありのままの姿を開示することで協力体制を整えている。利用者や家族の声に耳を傾け、小さな思いをくみ取る工夫がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議や食事会などで話し合える雰囲気作りをし、意見や提案など上がったものは検討あい反映させている。	職員は利用者に「人」として関わり、よりよい支援を行うため日々考え、その意見を基にケアを変更している。利用者の状態を観ながらケアプランに取り入れケアの統一が図られる。施設長は積極的に職員の声に耳を傾け、意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況などを把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員の努力や実績、勤務状況などを把握し、研修、勉強会等の参加などにて各自が向上心を持ってもらっている。又、働きやすい職場作りのために職員の意見などをなるべく取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集採用に対しては年齢、性別については関係なく福祉に対してどのような思いを持っているか、ホームの理念に適しているかを判断し職員に対しても個人能力を把握し最大限出されるように務め社会参加、自己実現のための勤務希望は前から聞き、急に変更するときは調整をしている。	認知症への理解があること以外は採用条件に入っていない。職員の働きたい意思を優先し、定年退職後も働くことが可能である。技術向上の研修や資格取得、目標達成に向けての取組等職員の向上心を伸ばす工夫をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部外部問わず研修に参加し、発表の場を持ち入居者様に対しての人権を守ることの意味を勉強し理解に努めている。	内部外部研修を通じ職員は全員人権教育の研修機会がある。利用者の人権を尊重することは利用者を理解することから始まる。講師は施設長やホーム長だけでなく、外部講師による研修会も行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村主催、グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会などの研修を受け、報告書を提出、他の施設からの良い情報などを出し、取り入れ職員の質の向上を図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会に所属し研修会やグループホーム間の交流を持ち情報交換を図り、連携を深めて良い事は積極的に取り入れていくように取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人の同伴をお願いし、よりよい生活をして頂けるよう本人の口から思いや願いを、そして入居当初の混乱を少しでも緩和するために馴染みの関係を作るよう心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時、お部屋へお茶を持参し、気軽に会話ができるような雰囲気作りを心がけている。会話の中で意見を聞き、その利用者のあった援助をさせてもらっている。思いを共有していく。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを共有し、話を聞き困っている状況を理解し、改善に向けて助言していけるように努めている。又家族の会の参加を促し意見交換の場を作り、信頼関係ができるように努めている。思いを知ったうえでフォーマルなサービスのみでなく、インフォーマルなサービス提供ができるよう支援をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が充実して穏やかな日々が過ごせるように、職員も同じ立場で物事を考え、人生の大先輩であることを念頭において、様々な事を教えてもらっている。その時に習った事は、「すごいですね」「とても助かりました」「有難う御座いました」「また、教えてくださいね」等の声かけは必ず行なっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時に、本人の健康状態やホームでの日常生活などを報告し、日頃の出来事を知って頂く働きかけをしている。又、行事やレクリエーション等に参加して頂き、一緒に手伝ってもらう事で気軽に会話がなされ、家族との協力体制を図っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て本人の馴染みの人の面会・電話等の促しや、ドライブなどで慣れ親しんだ場所や暮らしを思い出していただける支援をしている。	利用開始前に利用者の生活状況は把握するが、入居後の細かな生活の様子から情報を増やし、等身大の利用者像を把握するようにしている。電話や手紙のやり取りだけでなく、家族や訪問された知人を通じ更に利用者が築いてきた関係を知り、大切にしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者様の状況を把握し、体操・レクリエーション・歌・散歩等で、それぞれの場面作りをしながら、一人ひとりが孤立しないよう職員が対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の希望で、退居された利用者様のその後の様子や亡くなられて退居された家族の方に、時折、こちらから電話をかけている。又、今の状況を電話してこられる家族もあり、継続的關係が続いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心身機能で、ある程度されていることもあるが、出来るだけ日々の会話の中で、「その方、一人ひとりの思いを汲み取り、出来るだけ、本人の沿ったサービスを提供している。	入所時に「私の姿と気持ちシート」「バックグランドシート」を作成して利用者の生活歴を確認している。毎日の生活の中の関わりや会話の中から思いを推し測り希望等の把握に努めている。把握した意向等はそれぞれのシートへ追記してその人らしい生活を支援するのに役立っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やサービス事業所から、生活全般、その人自身を知ることができる情報を頂いている。出来るだけ本人の日々の生活や会話の中から、「大切にしている事」等を引き出し安心して暮らせるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りにて、夜勤者・日勤者の引継ぎなどで、個別の記録を報告し伝達している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って、短期目標に対してのモニタリングを毎日行なっている。又、身体面や、体調の変化など、気づきがあった場合、月1回のスタッフ会議で見直しケアプランに反映している。	家族・本人の意向等、職員、医師など関係者意見をもとに一人ひとりにあった個別の計画書を作成している。生活の中で気づいた点をその時に意見としてあげ、心身の変化があった時は見直しの期間に関わらず計画表の見直しを行っている。本人・家族へ説明し同意を得るようにしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングで気づきや変化を記入している。3ヶ月毎の見直し、で介護計画反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院の場合、定期的に面会、状態を把握する。又、病院等の受診送迎は、出来る限り支援している。受診時付き添い結果をきく。本人の希望があれば、買い物等につれていく。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで交流をもち、支援・援助を受けている。また、ボランティアなど月1回のヨーガ教室の支援をうけている。交番・消防署・学校・地域住民に利用者様と一緒にさくらだよりを配布し、存在を知ってもらっている。年2回、消防署による避難、消防訓練を行なっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、家族の希望があれば、以前からのかかりつけ医で受診していただいている。通院は事業所、又は家族が行ない、結果はお互いに報告し記録に残している。協力医に月1回受診と往診支援を頂いている。	かかりつけ医は本人及び家族の希望に応じており、協力医を勧める事はない。今までのかかりつけ医へ受診を希望する時は受診の支援を行っている。受診結果は事業所と家族間で情報を共有している。他科受診に関しては支援が有料のため必要な情報を家族へ説明を行い同意書を取るようになっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定を行ない、健康管理には特に気をつけている。顔色やいつもと違う変化や気づきがあれば、小さな変化も看護師等に報告するようにしている。尚、入居後全身の皮膚の状態を確認してもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医・家族・ソーシャルワーカー・担当者を交えて情報交換を行なっている。又、退院時にも同じくカンファレンスを行ない、早期退院に向けて、協働をお願いしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針は契約時に説明し、同意を得ているが、重度化した場合は、家族・かかりつけ医・ホーム側とで状況を把握し、再三にわたり、その都度話し合いお互いに納得いく方針を出し、同意を求め、全員で方針を共有している。	重度化、終末期の対応について、気持ちの確認やタイミングは、家族と常日頃から生活状況等報告をしているため、家族自身も「その時」を共に感じ取ることができる。また協力医を含め支援方法について話ができている。職員も看取り等の方針が決まった時はミーティングや申し送り等を通し全員が統一した対応できている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、内部研修を行なっている。又、急変時の電話連絡網等対応の仕方など、定期的に訓練している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡を作成し提示。全職員は、緊急招集訓練の連絡網の電話訓練、年2回の消防署の立ち合いによる避難訓練、自主訓練を行なっている。避難場所の道順の確認、人命優先と共に、必要な物品の搬出方法や確認の周知徹底に努め、地域住民の方にも緊急連絡網の中に記載し支援も願ひ承知を頂いている。	地域住民自身が地域の支援が重要と認識していることから、避難訓練は消防署、地域住民の協力を得て実施している。非常用備品に関しては事業所内に準備を行い、お互いのユニットでも助け合えるようにしている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は、全職員にしないように徹底している。又、相手が気分が良い、居心地が良いと感じられるような声かけをしている。トイレの声かけ等は、耳元で小声でお誘いをする。	排泄、入浴等の介助時には遠くから声を掛けない、ドアをきちんと閉めるなど羞恥心へ配慮をしている。排尿失敗時も他の利用者に分からないように声掛けを工夫して誘導等を行っている、職員の声掛け動作等適切ではない場合は施設長がその場その場で注意を行うと共に職員同士でも注意ができています。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の高齢化が進み、その方に合った散歩、外出、買い物、行事等の日常生活において自己決定をして頂き、参加されるよう働きかけている。表現できない方は、これまでの生活歴から見極め、出来る事を引き出している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが得意としている日常的なことをして頂く。その日の満足感が伝わるようにして「有難う」と感謝の気持ちを持って大切に向き合っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きたら洗面・整容を行ない、職員が常に見守っている。又、2ヶ月に1回美容師に来て頂き、自分の思いを伝えカットしている。出かける時は、家族や職員で洋服を選び、本人が自己決定し、表現できない方は、家族や職員で決めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る時は、入居者様に野菜を切ってもらったり、時には米とぎや味付けなども行なっている。又、テーブル拭き、お膳拭きなどの片づけも職員と一緒にしない、家事をやっていた昔も今も当たり前、いつまでも継続できるように見守っている。	職員は野菜の皮剥、配膳、食器拭き等できる事を利用者にしてもらっている。同じメニューを一緒に食べている。メニュー作りの時に好きなものや食べたいものを聞き献立に組み込んでいる、彩も良く食器も小ぶりで軽い物を利用し目で楽しめる工夫をしている。利用者が高菜漬を付けてもらったこともある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量など1日の摂取量を把握し、記録している。ミキサー食、刻み食、粥にしたりして提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯装着の方は洗浄している。一人で出来る方は、毎食後声かけをしている。困難な利用者様は介助でおこなっている。定期的に歯科往診を行ない、治療の必要な方は訪問診療（歯科往診）で行なっている。口腔ケアに対しては、歯科先生より指導、助言を頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時の排泄状況を把握し、その人の改善策の話し合いを持っている。すぐに実行し、夜間のみオムツにしたり、リハビリパンツに移行している。日中は、排泄チェックをし、トイレへの介助を行なっている。	一人ひとり排泄チェックがされており、その記録を参考にしながら誘導等をさりげなく実施している、リハビリパンツから布パンツに変更になった利用者や失敗をしなかったことに笑顔がほころぶ利用者もいる。羞恥心への配慮もあり、利用者の視界に入らないようにそっと見守りを行い、できないところの支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間排便の確認、記録、適度な運動（毎朝、体操を行っている）水分補給、乳製品（豆乳、ヨーグルト、牛乳）や食物繊維の多い献立（ゴボウ、大豆、芋類）を入れ、食事内容に気をつけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日出来るようにはしているが、毎日全員入浴されることはない。声かけをし、時間帯、長さは、一人ひとりの希望や、タイミングに合わせてゆっくり入浴していただいている。	入浴日は月水金と一応は決めているが利用者の希望により翌日になったり夕食後の入浴など常に対応ができる体制をとっている。入浴拒否時でも足浴など部分浴の対応している。ゆず湯しょうぶ湯など季節に合わせたお風呂や事業所手作りのお茶風呂や入浴剤の利用など入浴が楽しめる工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝一番のバイタルや顔色や体調の変化に気をつけている。その人の体調や疲労具合を見ながらベッドに休んで頂いている。夜間は、状態を細かく記録し、不安感の軽減に安心されるような声かけで安眠できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の処方箋を体温表に貼り付けており、全職員が把握できるようにしている。情報、指示、指導は、申し送りにて共有している。内服薬は、個人別にセットしており、内服時は、必ず名前、日時の声出し3回行なっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に知り得た情報を活かし、一人ひとり役割、楽しみごとを職員が把握し実行できるように支援している。裁縫、手芸、台所、掃除など個々人に合わせて職員と一緒にレクリエーションの一環として支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事で、四季に応じて戸外に出かけている。又、その日の希望により近くの神社まで散歩したり、家族の方と一緒に掛けてもらっている。	利用者一人ひとりの体調等に合わせて散歩等を行っている、誕生月に利用者の希望により行きたいところへ職員と一緒に外出することもある。季節のお花見やドライブへ行った時に外食や買い物などを行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知によりすぐに忘れる事が毎回であり、それが問題となるので、現在は、一人ひとりの希望は控えている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、本人自らが電話をしたり手紙のやりとりをすることが困難になられている。電話の取次ぎが可能な方にはとり次いでいるが相手からの声が聞き取りにくい場合は、職員が間に入り、中継ぎを行なっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の方が過ごすリビング等は、太陽の日差しがカーテン越しに全体的に入り、入居者様の方と職員が色々な会話、体操、レクリエーション等を楽しみながら過ごされている。	共有空間ではみんなが参加して楽しめる活動ができている、壁には職員と共同で作った季節の作品が飾っており、利用者が活けた花や黒板に書かれた絵など玄関に飾られている。職員の声やテレビの音もちょうどよく、窓には簾が掛けられて光の調整もされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有場所はリビングで、気の合った入居者様で話をしたり、テレビを見たり歌を唄ったりされている。自分の部屋でラジオを聞いたり、新聞を拡大鏡で読まれたり思い思いにされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には普段使い慣れたものを用意してもらってきってもらうようお願いしている。部屋の整理整頓、心地よく安心・安全に生活していただけるように努めている。	居室には、テレビ、ラジオ、家族の写真や筆筒・布団など馴染みの物がおいてある、利用者の身体状況に合わせたベッドの設置、西日が強い居室には遮光ネットが張られている。新聞の購入がされていたり、小学生のプレゼントでドアにはそれぞれ折り紙が貼ってあるなど利用者の個性も感じられる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室、外回りなど必要な場所には、手摺りを設置している。必要とされている方の居室には、転倒防止のため、センサーを付けるなど、安全な生活が出来るように配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主体性、責任性、存在性、自律性を持ってその人らしい生活を支援することが管理者、職員ともに共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年恒例の地域の夏祭り出店参加。 ・地域からの声かけで畑の整備をしていただき中学生と玉ねぎ植えと収穫。 ・小学校の生活発表会参加、卒業式の参加、ホームへ生徒達が訪問交流。 ・地域全体で蕎麦交流会をし、入居者様の声かけやかかわり方を知っていただく。 		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と一緒に近くのスーパーなどに出かけて知ってもらうことで認知症の方の理解に努めている。又、家族会や推進会議などの時に認知症の勉強会などを通じて支援する方法や会話の持って行き方などのケアに対する理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回市町村、地域の役員さん、入居者様のご家族と入居者様を交え、運営推進会議を行ない、ホーム内の活動報告をし、皆様よりアドバイスや意見をいただき、サービスの質の向上を目指している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に市町村からの参加、ホーム内の入居者様の過ごされ方、地域との交流などの報告意見をいただいている。 市町村からの依頼で認知症家族の交流会など参加し、グループホームの特色などを知っていただくことで協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修参加。事例を挙げ禁止対象となる行為を職員全員で意見を出し理解をすることで質の向上を高め全員で共有する様に心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修参加。ホーム内での声かけなどで勉強会を1ヶ月1回の中で出し合い気づいたことを全員で出し見過ごさないように確認し続行している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間行事などに必ず成年後見制度の勉強会を行ないその人の立場となり相談などもある程度職員ができるように勉強している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、本人には契約時「入居契約書」「重要事項説明書」の内容を読み説明、疑問点があればその都度説明し理解、納得を得ている。又、改定などがあった場合は家族に説明し同意書を作成している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも家族からの要望があれば管理者職員に話をしやすいホームの雰囲気作りをし、小さな気づきでも聞き落とさないようにしケアプランに上げてゆく。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のスタッフ会議や食事会などで話し合える雰囲気作りをし、意見や提案など上がったものは検討し反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員の努力や実績、勤務状況など把握し、研修、勉強会等の参加などにて各自が向上心を持ってもらっている。又、働きやすい職場作りのために職員の意見などをなるべく取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集採用に対しては年齢、性別については関係なく福祉に対してどのような思いを持っているか、ホームの理念に適しているかを判断し職員に対しても個人能力を把握し最大限出されるように務め社会参加、自己実現のための勤務希望は前から聞き急に変更するときは調整している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部外部問わず研修に参加し、発表の場を持ち入居者様に対しての人権を守ることの意味を勉強し理解に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村主催、グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会などの研修を受け、報告書を提出、他の施設からの良い情報などを出し、取り入れ職員の質の向上を図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会に所属し研修会やグループホーム間の交流を持ち情報交換を図り、連携を深めて良い事は積極的に取り入れていくように取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人の同伴をお願いし、よりよい生活をして頂ける様本人の口から思いや願いを、そして入居当初の混乱を少しでも緩和するために馴染みの関係を作るよう心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前ホームの見学に来られた時に困っていることや不安な事、ホームに対する希望などをお尋ねしケアプランに入れるようにしている。ホームに面会に来られる際も職員一同笑顔で接し、入居者様の様子を細かく説明し、ご家族の要望などをお聞きしながら信頼関係を築いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に至るまでの思いをよく知った上で、本人と家族が望むことに対して適切な判断をし支援する。又、他のサービスを受け入れることが必要と判断した場合は、他の施設の紹介やサービスを受けるようアドバイスしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が充実した毎日を過ごせるように職員も同じ立場、目線で物事を判断し尊敬の念を持って接しその方のしきたりや風習、生活の知恵など教えて貰えるような支援をしている。出来る事は手伝っていただき「有難うございます。」「助かりました。」の声かけは必ず行なっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時、本人の健康状態、生活全般などケアプランの経過を報告し状況を知ってもらい職員と家族で支えあう方向性を考えて助言してもらい必要に応じて協力をして頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を中心に親類、友人の方々に面会に来て頂くよう協力をお願いしている。又、家族の方に散歩や趣味の教室に出かける協力をして頂いている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃から全体的に入居者を把握し状況に応じ孤独にならないように職員が交流の橋渡しをする支援。食事作り、レクリエーションなど、散歩の時には手を繋ぎあうことでお互いを気遣われるような支援をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し、独居になられた家族には時々入居者様と一緒に仏壇に上げる花を持参し、雑談をするなど継続的な関わりをしている。又、いつでもホームに立ち寄れるような雰囲気作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心身機能である程度は制限されていることもあるが出来るだけ日々の会話の中で希望や意向を聞き出し入居者の方一人ひとりの思いを汲み取り職員が支えあいながら少しでも本人の希望に添った生活が出来るよう援助している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やサービス事業者から生活全般その人自身を知ることが出来る情報を頂いている。又、本人の会話の中から出てくることを利用し、これまでの暮らしの情報を得るように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は24時間一人ひとりの生活を見守り細かいことも見逃さず記録に書きとめその都度適した介護や援助が出来るように努めている。又、職員間でも申し送り簿で一日の出来る事を細かく書き伝えていくよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のスタッフ会議や朝の申し送り、日常会話の中や家族の面会時などに家族や職員からの気づきや意見を聞きケアプランのチェック、見直しなどカンファレンスを行ないながら、入居者様にとって無理のない楽しく充実した生活が送れるようなプラン作りをしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々一人ひとりの様子や気づき、実践したことなどを細かく介護記録に記入し職員間でも意見交換しながら介護計画を見直している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院の場合、入居者様で折った鶴にメッセージをつけてお見舞いに出かけている。面会時に状態把握している。又、病院等の受診送迎は出来る限り支援している。本人の希望があれば買い物支援もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで交流を持ち支援、援助等を受けている。又、ボランティアなど月一回受入れの支援。交番、消防署など「さくら便り」を入居者様と一緒に持参し、存在を知っていただいている。町の図書館からは本の貸し出しも利用して定期的な交換に来て頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、家族の希望があれば以前からのかかりつけ医で受診して頂いている。通院は事業者か家族が行ないお互いに報告を行ない記録に残している。協力医に月一回受診と往診支援を頂いている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医、ソーシャルワーカー、担当者との情報交換を行ない家族の方にも早期退院に向けて協力をお願いしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医、家族、ホーム側と早い段階から話し合いを再三行ない確認を十分に行ないながら細かなことも説明し本人、家族の考え方に共有し支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成し独自の勉強会を行ない、全職員には夜勤時は救急マニュアルを手元に置きイメージトレーニングをする様にしている。又、急変時の電話連絡網等の対応の仕方など定期的に訓練している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し掲示、全職員には緊急招集訓練を行なっている。避難場所の道順の確認、人命優先と共に必要な物品の搬出方法や確認の周知徹底に努め地域住民の方にも緊急連絡網に掲載、支援もお願いして承知を頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は全職員にはしないよう日常において周知徹底をしている。スタッフ間で隠語を使い対応。トイレの声かけは耳元で小声で行なうなど。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の高齢化が進みその方に合った外出、買い物、掃除など日々の活動においてこちらから決める事ではなく自己決定をしていただき参加をして頂いている。表現できない方は今までの生活歴から見極め出来る事を支援、援助している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の起床、就寝、食事、入浴など時間は決まっているがその日の本人の体調や希望に合わせて行なっている。又、表現できない方には、声かけをし納得した上で思いを汲み取る支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きたら洗面、整容を行ないスタッフは常に見守っている。出かける時は職員と一緒に洋服を選び本人が自己決定している。ボランティアの美容師さんに自分の思いを注文しカットしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー作りの中で好みを聞きメニューに取り入れ、食事の準備は個人が出来る事をお手伝いして頂きながら入居者様と共有出来るような支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないが食事量、水分量など一日の摂取量を把握し記録している。自力摂取困難な方も最初から介助せず時間がかかってもゆっくり食べられるよう声かけ、見守りながら困難時には全量摂って頂ける様介助を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨き、自分から行かれる方は声かけ、声かけで行かれない方は洗面所へ誘導し歯磨きを支援、歯磨きができない方は職員が行なっている。定期的に歯科往診を依頼し、検診を受け治療や指導助言を頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間個人の排尿、排便のチェックを記録に残し一人ひとりに声かけ、トイレの誘導、排尿、便の確認、工夫しながら自立に向けての声かけ支援を行なっている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間排便の確認、記録、適度な運動、水分補給、乳製品や食物繊維の多い物等メニューに工夫し、一人ひとりに合った支援をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日全員が入浴されることはないが時間帯や長さは一人ひとりの希望や体調に合わせてゆっくり入浴していただくように支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調には細かく目、気を配り疲労具合を見ながらベッドに休んでいただいている。夜間トイレの回数が多い方には午睡を促している。日中の活動や不安感の減少に努め穏やかに安眠できる支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の処方箋を体温表に貼り付けており、全職員が把握できるようにしている。情報、指示、指導は申し送りにて共有している。内服薬は個人別にセットしており、内服時は必ず名前、日時の声出し3回している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に知り得た情報を活かし、一人ひとり役割、楽しみごとを職員が把握し実行できるように支援している。裁縫、手芸、畑仕事、台所、掃除など個々人に合わせて職員と一緒にレクリエーションの一環として支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や外の気温を確認し神社、ホームの周りを散歩、ドライブなどに出かけたりし本人の希望に添うように支援している。又、家族の方々に協力を得て花見などの外出の支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員と行った際、入居者様にお金を渡し支払いをして頂き支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の誕生日や母の日などにプレゼントなどが届いた時は、受け取って喜んでいところの写真を撮り家族にお渡ししている。入居者様が希望すれば電話等の支援もしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方々が過ごすリビングはいつも風通しがよく、太陽の日差しが全体的に入り入居者様と職員が色々な会話、体操やレクリエーションなどを楽しみながら過ごされている。リビングから中庭の畑が見え季節の花が咲くのを楽しみにしておられる。壁面には共同作業した作品を飾っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用場所は広くはないが個々人の椅子やソファに横になり体を休めたり、職員と一緒に歌を唄ったり雑談などしながら楽しく過ごされている。又、狭いが図書スペースがあり図書館より貸し出しの本をゆっくり読んだりされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に普段から使い慣れたものを用意してもらおうお願いしている。筆筒、布団、家族の写真など。部屋の整理整頓はいつも心地よく過ごして頂ける様職員と共に行なう支援をしている。又、西日が当たる部屋には遮光ネットを取り付けている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっていてトイレ、浴室、廊下には手摺りをつけている。居室、トイレ、浴室など場所を間違えないように見やすい高さにネームをつけて混乱を防いでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない